

【チアーズクラブ羽生】コンポストでごみ削減への取り組み

ムジナモの聖地 羽生。

チアーズクラブ。

リサイクルについての取り組みを発表します。

インターネットで調べたら、日本のリサイクル率は約 20%、ドイツは 67% です。

日本とドイツのごみの量の違いに着目すると、1 人当たりのごみの量は、日本が 325kg、ドイツが 600kg と、ドイツの方が日本の 2 倍の量があります。

しかしリサイクルしたものを抜いて残ったごみの量は、日本 290kg に対してドイツは 200kg と、日本より少ないので。

そこでリサイクル先進国のドイツの取り組みを学ぶため、ドイツのライゼヴィッツ博士にお話を伺いました。

ドイツは各家庭の裏庭に木材で囲ったコンポストが二つあり、芝や草、主食のジャガイモの皮などを入れて堆肥をつくり、花壇の土に使っているそうです。

ごみの分別の仕方はドイツも日本も大体同じです。

違うのは、各家庭にコンポストがないことです。

そこで、コンポストをつくってみました。

コンポストには食品を分解してくれる微生物が繁殖するように、さつまいもの苗床で使った土を混ぜることにしました。

微生物の栄養になる米ぬかや落ち葉、それから通気性を良くするもみ殻も混ぜました。

2 週間ほど経ってからみかんやりんごの皮、キャベツの外葉なども入れました。

3 か月後には堆肥ができます。

コンポストで作った堆肥は、さつまいもの畑や果樹園に撒きました。

生ごみをコンポストで堆肥にすることでごみを減らせるし、堆肥は畑の肥料になります。

ごみが減ればごみを運ぶトラックが出す CO_2 やごみ焼却場から出る CO_2 を減らせます。

私たちは、自然環境を守り、循環型社会ができるよう、コンポストでごみ削減を目指します。

イオンチアーズクラブ羽生。